

2026（令和 8）年 7 月 15 日
科学技術振興機構（JST）

「サイエンスアゴラ 2026」出展プログラムが決定！ “科学とくらし ともに語り 紡ぐ未来”をビジョンに掲げ開催

JST(理事長 橋本 和仁)は、「サイエンスアゴラ 2026」を、2026 年 9 月 12 日（土）・13 日（日）にテレコムセンタービル他（東京都江東区）で開催します。

＜多様な関心がつながり、対話が広がる科学のひろば＞

「サイエンスアゴラ」は、科学技術と社会をつなぐ国内最大級のオープンフォーラムで、あらゆる立場の人たちが集う広場です。今年も大学や研究機関、企業などから多様な出展者が集まり、未来のくらしや社会、科学技術の可能性を体感できるプログラムが展開されます。中高生や学生による出展も充実しており、先端研究機関のブースと近接配置することで、次世代と研究者との対話が自然に生まれる場を創出します。また、来場者と出展者、さらに出展者同士の対話を活性化させる工夫も加え、科学技術と社会のこれからを共に考える機会の提供を目指します。



会場にはニューロテック、超音波操作、先端材料や AI など、未来のくらしを大きく変える最先端研究が集結し、その驚きと可能性を“体験”できるプログラムが勢ぞろいします。宇宙観測や台風制御、人工光合成といったスケールの大きなテーマでは、未来の社会や地球との関わりをリアルに想像できる企画を展開。さらに、中高生や学生が主体となるプログラムでは、カードゲームやワークショップ、ディベート、アイデアソンなどを通して、参加者同士の対話が自然と生まれる仕掛けが満載です。加えて、観察・実験・シミュレーション体験など、子どもから大人まで夢中になれる体験型コンテンツも充実し、“楽しい”から“もっと知りたい”へと広がる学びを提供します。

＜興味で巡る、5つのジャンル＞

来場者が関心に応じて会場を巡ることができるよう、「未来の技術でくらしが変わる」「地球・環境・未来を守る」「いのち・からだ・医療のひみつ」「見て・さわって・楽しく学ぶ」「社会とつながる・世界とつながる」の 5 つのジャンルを設定しました。会場では、科学技術と社会の関係をテーマとした対話型セッションやワークショップ、最先端研究の体験展示などを展開します。ロボット、ニューロテックや AI などの技術はデモや体験を通して直感的に学べるほか、観察や実験、カードゲームなど子どもから大人まで楽しめる企画も充実。さらに、気候変動や防災、医療・生命科学といった社会課題も扱い、科学を自分ごととして捉えながら、未来に向けた行動や選択を考える機会を提供します。

＜関心が見えると、対話が変わるー新たな仕掛け「Interest Tag」＞

新たな取り組みとして、「Interest Tag（インタレストタグ）」を導入します。来場者にはジャンルを示したシールを身に着けてもらい、自身の関心領域を可視化します。さらに自由記述のシールも用意し、「環境問題」や「AI」といった関心テーマや、「じっくり学びたい」「研究の背景や詳細を知りたい」「気軽に概要を知りたい」といった求める情報の深さや見学スタイルを自由に表現できるようにします。これにより出展者は来場者の関心や状況を踏まえた声かけや説明が可能となり、よりきめ細かな対話の実現を図ります。

＜出展者もつながる、交流を生む取り組み＞

今年は出展者同士の交流促進にも力を入れます。フロアごとに出展者見学の時間帯を設定し、自ブースを離れて他の出展を体験できる機会を設けるとともに、出展者交流会では従来のピッチプレゼンに加え、参加者同士の対話を一層促す仕掛けを採り入れる予定です。分野や立場を超えた交流から新たな気づきや連携が生まれることを期待しています。

＜会場キュレーション（プログラム配置）と推進委員イチオシの注目プログラム＞

ブースの配置を工夫する「キュレーション」では、科学コミュニケーション分野で活躍するアナウンサーで同志社大学 ハリス理化学研究所の榎太一 氏ら、有識者9人で構成する「サイエンスアゴラ 2026 推進委員会」（委員長：JST 理事 次田 彰）が担当。来場者が会場を巡回しやすいよう、フロアの紹介やプログラム配置の工夫を行うとともに、注目プログラムを選出しました。初日12日（土）の開場後には1階オープンスペースにて、推進委員や日本科学未来館科学コミュニケーターが登壇し「サイエンスアゴラ 2026 見どころ紹介」も実施します。



榎 太一 氏らがテレコムセンタービル会場のキュレーションを担当

＜お台場近隣機関との同時開催で広がる、多様な来場体験＞

産業技術総合研究所 臨海副都心センターの一般公開、東京国際交流館の国際交流フェスティバル、東京都立産業技術研究センターの一般公開など近隣機関とも連携します。また日本科学未来館では、サイエンスアゴラ連携企画として、「未来をつくるラボ」実証実験や科学コミュニケーターによる特別トークショーを実施します。これらの同時開催を通じてお台場地区を盛り上げるとともに、地域の機関との連携により、多様な来場体験を創出し、科学と社会のつながりをさらに広げます。

＜科学と社会をつなぐ対話の場へ＞

サイエンスアゴラ 2026 では、科学技術を「知る」「体験する」だけでなく、社会との関わりを考え、多様な意見を交わすことを重視しています。来場者と出展者、さらには出展者同士の対話が重なり合うことで、新たな視点や価値が生まれる場となることを期待しています。

<サイエンスアゴラ 2026 開催概要>

日時：9月12日（土）10:00～18:00、13日（日）10:00～17:00

会場：テレコムセンタービル他（東京都江東区青海）

※参加費無料（一部のプログラムは、材料費などが必要です。）

【特設ウェブサイト URL】<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/2026/>



<添付資料>

別紙：サイエンスアゴラ 2026 について

<お問い合わせ>

<事業に関すること>

科学技術振興機構 社会技術研究開発センター 企画運営室

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ

大矢 克（オオヤ マサル）、加藤 斉史（カトウ タカフミ）

Tel：03-5214-7493

E-mail：agora@jst.go.jp

<報道に関すること>

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ

Tel：03-5214-8404 Fax：03-5214-8432

E-mail：jstkoho@jst.go.jp

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JST は、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JST は荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JST は、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

サイエンスアゴラ 2026 について

「サイエンスアゴラ」は、科学と社会をつなぐ日本最大級のオープンフォーラムです。あらゆる立場の人たち（市民、研究者、専門家、メディア、産業界、行政など）が対話・協働し、それを政策形成や知識創造へ結び付ける「共創」のプラットフォーム構築を推進しています。

ビジョン：科学とくらし とともに語り 紡ぐ未来

今年も、サイエンスアゴラに集う人々が自分の興味関心に沿って会場を楽しめるよう、採択された全てのプログラムは、自然科学や人文・社会科学も含めた5つのジャンルを基に、推進委員により各フロアについて、新たな視点でつながりが生まれるようキュレーションを行いました（次ページに詳細あり）。

＜サイエンスアゴラ 2026 開催概要＞

日 時：9月12日（土）10:00～18:00、13日（日）10:00～17:00

会 場：テレコムセンタービル他（東京都江東区青海）

特設サイト：<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/2026/>

参 加 費：無料（一部のプログラムは、材料費などが必要です。）

主 催：科学技術振興機構（JST）

協 賛：旭化成株式会社、NTT株式会社

協 力：東京臨海副都心まちづくり協議会、株式会社東京レポートセンター、株式会社ゆりかもめ

後 援：内閣府、文部科学省、東京都、日本学術会議、日本経済団体連合会、国立大学協会、
日本私立大学団体連合会、理化学研究所、産業技術総合研究所、日本学生支援機構、
東京都立産業技術研究センター（予定含む）

グローバル

パートナー：アメリカ科学振興協会、南アフリカ共和国科学技術イノベーション省、韓国科学創意財団

＜サイエンスアゴラ 2026 推進委員会（委員は五十音順）＞

委員長	次田 彰	JST 理事
委 員	五十嵐 美樹	東京都市大学 教育開発機構 准教授
委 員	伊藤 洋一	日本科学未来館 副館長
委 員	上村 遥子	SUNDRED 株式会社 チーフエバンジェリスト／コミュニティデザイナー／パートナー
委 員	亀岡 嵩幸	九州大学 芸術工学研究院 メディアデザイン部門 助教
委 員	川越 至桜	東京大学 生産技術研究所 教授
委 員	重藤 さわ子	事業構想大学院大学 教授
委 員	本多 達也	富士通株式会社 コンバーGINGテクノロジー研究所 ソーシャルテクノロジー社会実装推進室 Antenna プロジェクトリーダー
委 員	榊 太一	同志社大学 ハリス理化学研究所 専任研究所員（助教）

＜サイエンスアゴラ 2026 のキュレーションフロアと担当推進委員＞

- 1 階 担当委員：伊藤 洋一 氏、川越 至桜 氏
 3 階 担当委員：重藤 さわ子 氏、本多 達也 氏
 4 階 担当委員：上村 遥子 氏、榎 太一 氏
 5 階 担当委員：五十嵐 美樹 氏、亀岡 嵩幸 氏

＜サイエンスアゴラ 2026 推進委員会が選出した注目プログラム＞

ブース

実施日時	プログラムタイトル	出展者
9/12（土） 10:00～18:00	ダイヤモンドがセンサーに！？	量子科学技術研究開発機構
	見えない違いを見つける科学	カワノラボ・ニッセンケン
9/13（日） 10:00～17:00	波で物を動かす：超音波が拓くインターフェース	筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター
	匂いと触覚で感じる、植物の感覚の世界を体験しよう！	JST ERATO 豊田植物感覚プロジェクト
	3D プリンタで創る自助具と、未来を紡ぐ対話ブース	COCRE HUB
	気候ストライプで考える私たちの暮らし	気象キャスターネットワーク

セッション

実施日時	プログラムタイトル	出展者
9/12（土） 12:00～13:00	画期的！みんなに優しい快適な空旅にする JAXA の提案	宇宙航空研究開発機構
9/13（日） 10:30～12:00	AI でつむぐ、みんなの共創アイデアソン	当事者の声からインクルーシブ社会を目指す団体
9/13（日） 13:00～14:30	宇宙の電波を調べる野辺山宇宙電波観測所	自然科学研究機構 国立天文台 野辺山宇宙電波観測所

以上